

教えて 学んで 楽しもう

# 学びのトレジャー

Vol.6

2024年2月23日

## この作品の作者は 誰でしょう？ 鑑賞（中学1年生）

京都教育大学附属京都小中学校  
足立 彰 先生

平均的に中学生は、どれくらい美術作品やその作者についての知識をもっているのでしょうか？質問してみると、ピカソ、ゴッホ、レオナルド・ダ・ヴィンチ等などが挙がってきますが、絵を鑑賞しながら「作者はどんな人だと思う？」と問うと、ちょっとイメージするのが難しそうに見られます。



今回の課題は、画家のポートレートを紹介しながら、その作者の作品を一致させてみようとするものです。

まず黒板に作品と作者のポートレートを掲示し、「この人たちが描いた作品はどれでしょうか？」と問いかけます。掲示している最中から「あっ！あの絵知ってる！」などの声は上がりますが、「えっ？誰？」という声の方が多いようです。ポートレートには印象的な特徴の方や写真年代の特徴が見られるものもありますが、生徒は、それぞれの気づきを頼りにして、仮の正解を模索していきます。

次にその個々の気づきを持ち寄ってグループごとに、さらに作品を鑑賞しながら作者を推測していきます。「この人はどんな人柄だろう？」「この絵は、どのような考えで描かれたものなのだろう？」など、与えられている情報は少ないのですが、少人数の話し合いの中で、作者と作品の関係性を意識した鑑賞が進みます。

指導者の支援としては、全体の議論の様子を見ながら、作者または作品の出身地（製作地）・時代的背景などを適宜捕捉し、生徒の見方や考え方が広がり・深まるようにしていきます。



なかなか、正解にたどり着くことは難しいのですが、活動の中で、「画家（作者）」を意識する貴重な学習になっています。

開隆堂